

第2期京都府地域創生戦略（中間案）に対する意見募集結果

〔募集期間〕 令和元年12月16日から令和2年1月15日まで

〔意見提出数〕 46件（提出者数 13名・団体）

意見(要旨)		府の考え方
総論	「◆地域創生実現のための府民協働の更なる推進」における「府民と連携」はどのように進めるのか。	戦略の策定段階においてはパブリックコメントを実施し、広く御意見をお聞きするとともに、施策の実行段階においても、例えば、地域社会の課題に取り組む地域活動が継続して実施できるよう、周囲の協力が得られる環境を整えることや、他団体、市町村、京都府の関係の構築を交付金で支援する地域交響プロジェクトなどを推進し、府民と連携・協働しながら地域に根ざした絆や資源を生かした取組を進めてまいります。
	「◆市町村や多様な主体との緊密な連携」における「交流圏」とは何であるのか。	人口減少社会において地域の活力を維持・向上させるには、移住・定住を進めつつ、観光客をはじめとする交流人口の拡大を図ることが重要であることから、京都府では「もうひとつの京都」など、複数の市町村にまたがる圏域で交流人口を拡大させ、地域経済の活性化を図る取組を進めてまいりました。「交流圏」とは、このような圏域を指すものとして使用しております。
	「◆PDCAサイクルの確立」に「毎年客観的に検証」と記載されているが、どのように検証されるのか。	京都府地域創生戦略は、産官学金労言の有識者で構成する場において、戦略で設定した数値目標の実績値を毎年報告し、最終目標値に対する進捗状況等を審議・評価いただくことで検証されます。
	地域創生の効果が発現しにくい地域の状況を十分分析し、必要な施策を実施するとともに、町村の取組をきめ細かく支援していくことが重要であり、趣旨を第2期戦略に明記すべきではないか。	御指摘のとおり全ての地域で地域創生の効果が現れることが大切であることから、戦略の推進に当たっての市町村との緊密な連携において、「小規模市町村の補完・支援」を追記するとともに、PDCAサイクルの確立において、「府内全ての地域で取組の効果が現れるよう」との記述を追記しました。
	DMOなど専門的な用語については、注釈を入れるべきではないか。	DMOをはじめ、専門的な用語について注釈を入れます。
	都会への若者の人口流出を食い止めるために、戦略に基づく施策を進めてほしい。	少子高齢化・人口減少社会からの課題克服に向けて、引き続き本戦略に基づく地域創生の取組を推進してまいります。
基本目標1	「2 夢を実現する教育の推進」において、「生涯学習」「人権教育の推進」「スポーツの推進」を記述すべきではないか。	基本目標1では、子育てにおける教育の重要性に鑑み、主に児童や生徒に対する教育に係る施策を記述しております。御指摘の「生涯学習」「人権教育」「スポーツの推進」に関する施策は、横断的な目標1「府民の誰もが生きがいを感じて活躍できる共生社会づくり」中で記述しております。
	社会教育における「青少年の健全育成」を明確に位置づけるため、「青少年の健全育成の推進」を追加すべきではないか。	基本目標1「2 夢を実現する教育の推進」では、「次代の京都を支える・人材の育成・・・」と記述しており、青少年の健全育成という視点を盛り込んでいる他、「高校生の海外留学支援や外国人との交流の充実」といった青少年が主体の施策も記述しております。これら施策を推進することで、青少年の健全育成を図ってまいります。

意見(要旨)		府の考え方
基本目標 1	社会的な活動を行う団体(PTA、青少年健全育成市町村民会議、ボーイスカウト、ガールスカウト等)が地域と一体となって行う事業の記述を追加すべきではないか。	御指摘の社会的な活動を行う団体との連携・協働は大切であることから、各基本目標での施策ではなく、「戦略の推進に当たって」の「◆地域創生実現のための府民協働の更なる推進」において、「多様な主体との連携・協働」と記述しております。
	少子高齢化社会において、健康で交流盛んな活力ある社会を築くためには、その中核にスポーツが担っている場面が多いため、基本目標1に、子どもたちの身体活動をさらに推進する取組を追記すべきではないか。	スポーツを通じた府民の活躍促進が重要との御指摘を踏まえ、スポーツに関する記述を、横断的な目標1「2 健康で心豊かな社会の実現」「(3)誰もが親しみ夢が広がるスポーツの推進」から、「1 府民の誰もが生きがいを感じて活躍できる共生社会づくり」に「(2)スポーツを通じた府民の活躍の推進」として移します。
基本目標 2	「2 働きやすい環境の整備と人材の確保」における「ハラスメント対策の周知」と記載を、「・・・内容の周知、防止への対策とそれらの啓発」に修正すべきではないか。	御指摘のとおりハラスメントの防止への対策は重要であり、防止に向けた取組を含めた総合的なハラスメント対策を周知、啓発してまいります。
	農業における労働力不足の解消に向けて、外国人労働者の活用による人材確保も推進すべきであるため、「若者、女性、シニア世代などの人材の確保・育成」を「若者、女性、シニア世代や農業支援活動を行う外国人材などの人材の確保・育成」に修正すべきではないか。	御指摘の農業における外国人材の確保・育成については、現時点で個別の施策を掲げておりませんが、横断的な目標1で掲げている外国人との多文化共生の社会づくりを広く進める中で進展していくものと考えます。 このような認識のもと、農業における幅広い人材の確保・育成を目指すため、「幅広い」という記述を追加いたします。
	農村地域の維持のためには、捕獲をはじめとする有害鳥獣への対策が必須であるため、「有害鳥獣対策の強化による地域農業基盤の維持」という文言を追加すべきではないか。	御指摘の有害鳥獣対策の強化は大切であることから、ジビエのブランド展開と併せて、「(2)京都産農林水産物のブランド戦略の強化」の各施策に記述を追記いたします。
基本目標 3	基本目標3「2 魅力ある観光の創造と交流の促進」の各取組について、創造の視点が感じられない。	「(3)観光を入口とした多様な交流の推進と地域資源の活用」に掲げた施策を推進し、魅力ある観光の創造を図ってまいります。
	アートを生み出す人材を育成するだけでなく、鑑賞を楽しむさらに購入することができる人材も育てていくことが必要である。 長く続けているだけで、予算を一律カットするのではなく、時代にあった企画や取り組みをしている事業(団体)には支援を増やしていくようにされたい。	文化に関わる(担う・支える・楽しむ)人づくりに関する施策をしっかりと進めてまいります。
	「文化力」という記述は、定義が曖昧であり使用しない方がよいのではないか。	京都府では、「文化」が京都の強みとブランド力の源泉であることに鑑みて、「京都府文化力による未来づくり条例」を制定し、京都が有する文化資源の力を「文化力」と位置づけてきました。このような経過を踏まえ、京都府地域創生戦略においても他計画との整合性を図るため「文化力」を使用しております。
	「文化に関わる」という表現では弱いため、「(1)積極的に文化に関わる(担う・支える・楽しむ)人づくり」を追加すべきではないか。	京都府では、文化を楽しむ人など、文化に関わる人の裾野を広げる取組を展開することを考えております。文化を楽しむ人の裾野が広がることで、積極的に文化を担い・支える人づくりも推進できると考え、「(1)文化に関わる(担う・支える・楽しむ)人づくり」という表現にしております。

意見(要旨)	府の考え方
<p>「(2)文化財の保存・継承・活用と伝統文化、生活文化の継承」の記述は、新たに生まれてくる文化についての表現が含まれていないように感じるため、「(2)伝統文化、生活文化の継承と文化財の保存・継承・活用」に修正すべきではないか。</p>	<p>「新たな文化の創造」については、「(3)新たな文化の創造と情報発信、活動拠点の整備」部分で記述しております。</p>
<p>「(4)文化に関連する産業の振興と創造の推進」を「(4)文化に関連する産業の振興及び創造の推進」に修正すべきではないか。</p>	<p>御指摘の見出し部分の記述については、接続詞について平易な表現で統一していることから、原案のとおりといたします。</p>
<p>「3 移住・定住促進や関係人口の創出・拡大」における「(1)多様な主体や人材との協働によるネットワークの構築」の「多様な主体」について、例示を加えるべきではないか。</p>	<p>御指摘の記述は、施策の見出し部分の記述であるため、多様な主体の例示をしておりませんが、施策の中で「行政」「地域コミュニティ」「京都府出身者」「企業」「小中学生をはじめ」といった多様な主体の例示を記述しています。</p>
<p>基本目標3の冒頭記述について、「…国内外から訪れる人々を更に惹きつけるとともに、地域との関わりを深めるための受け皿を構築し、…」を、「…国内外から訪れる人々を更に惹きつける。地域との関わりを深めるための受け皿を構築し、…」と分割して記述すべきではないか。</p>	<p>「国内外から訪れる人々を更に惹きつける」ことに加え、「地域との関わりを深めるための受け皿を構築」することにより、「京都への継続的な人の流れを生み出し続ける環境づくり」につながることから、一文であるのが適当と考えております。</p>
<p>基本目標3の冒頭記述について、「生み出し続ける環境」を「生み出す環境」に修正されたい。</p>	<p>「継続的に・・・生み出し続ける環境」という原案の表現については、「続ける」という内容に重複があることから、御指摘を踏まえて、「継続的に」という記述を削除します。</p>
<p>「1 文化力による交流の促進と地域活力の創出」の箱書きについて、「地域文化の多様性を大切にするとともに、文化に関わる国内外の人々の交流により新しい文化が生まれ続け、文化と観光・産業・福祉・教育などの結びつきにより暮らしと経済の好循環を生み出す環境を、文化庁が本格移転する京都から整備」を、「人々との交流」「…結びつき、暮らし…」に修正されたい。</p>	<p>「交流」は、府民と国内外の人々との交流だけでなく、京都を舞台として国内外の人々同士の交流も含むものと考え、「人々の交流」という記述にしております。また、「暮らしと経済の好循環」を「文化」と「観光などの他分野」との結びつきにより生み出すものであることから、現在の記述としております。</p>
<p>「(1)文化に関わる(担う・支える・楽しむ)人づくり」における 「○文化に関わる人材の育成と裾野の拡大 ○和食文化人材の育成や、茶道、華道、その他の生活文化を学ぶ機会の創出」を、 「○文化に関わる人材の育成 ○和食文化人材の育成や、茶道、華道、その他の生活文化を学ぶ機会の創出による裾野の拡大」に修正すべきではないか。</p>	<p>裾野の拡大には、府内各地でのミュージックキャンプなど、生活文化を学ぶだけでなく、文化(音楽)を楽しむことで裾野を拡大する取組も想定していることから、「裾野の拡大」と「生活文化を学ぶ機会の創出」を分けて記述しております。 「人材の育成と裾野の拡大」については、上記の趣旨がわかりやすくなるよう「文化に親しみ触れる機会の創出」という記述に修正します。</p>
<p>「(2)文化財の保存・継承・活用と伝統文化、生活文化の継承」における 「○文化財の保存・継承・活用の推進」について、文化財だけだと古いもののイメージが強く、新しく生み出されたものを含んだ表現のほうが、汎用性を高められるため、 「(2)新しい文化財及び伝統的文化財の保存・継承・活用と伝統文化、生活文化の継承 ○新しい文化財及び伝統的文化財の保存・継承・活用の推進」に修正すべきではないか。</p>	<p>府内各地の文化財が地域に愛され、誇りとして適切に保護・継承されることを目指しており、御指摘の趣旨は、文化財の保存・継承・活用の取組を推進するに当たり、しっかりと踏まえてまいります。</p>

基本目標3

意見(要旨)	府の考え方
「○文化庁や関係市町村、大学と連携した国内外への文化発信」について、「大学」に限定せず、「教育機関」とすべきではないか。	「国内外への文化発信」については、教育機関としての大学ではなく、様々な文化活動の担い手となる大学生に着目した大学との連携を想定していることから、現在の記述としております。
「(4)文化に関連する産業の振興と創造の推進」について、具体性を感じられる表現に修正すべきではないか。	御指摘の記述は、施策の小見出し部分であるため、具体的な記述はしていませんが、各施策の中で「世界のクラフトを一堂に鑑賞、販売できる機会の創出」や「産業やスポーツツーリズムと文化芸術を融合させた観光や地域振興」など、具体的な記述をしています。
「○京都と世界のクラフトを一堂に鑑賞、販売できる機会の提供」を「京都と世界のアートを一堂に鑑賞、販売できる機会提供の継続」に修正すべきではないか。 また、「提供」だけでなく、販売(購入)して終わりではなく、次にまた購入しようと思える仕組みが必要ではないか。	京都府では「アート&クラフト」を推進していることからクラフトの記述を残した上で、御指摘を踏まえてアートを追加し、「京都と世界のアートやクラフト・・・」という表現に修正いたします。 また、提供だけでなく次の販売(購入)につなげる仕組みについては、「文化芸術作品の制作・発表・販売までを一貫して行うサイクルの創出」の中で、「サイクル」に御指摘の趣旨が含まれるため、原案のとおりいたします。
「○産業やスポーツツーリズムと文化芸術を融合させた観光や地域振興」を「…観光モデルの創出や地域振興」に修正すべきではないか。	当該施策は、東京オリンピック・パラリンピックや大阪・関西万博の開催などにより国内外の多くの人々が訪れる機会を捉えて、文化を生かした観光振興や地域振興を図る趣旨であることから、観光モデルの創出に限定されるものではありませんが、趣旨がわかりやすくなるよう「観光振興や地域振興」という表現に修正いたします。
「経営マネジメント力を有する高度観光人材の育成」とは何を想定しているのか。	経営マネジメント力を有する高度観光人材については、例えば観光MBA(経営修士)コース等を有する大学や、和食の次代を担う人材育成を目的とした、京都府立大学における「和食文化学科」等とも連携しながら、新しい観光需要を自ら創出できる経営センスを持った優れた人材を想定しております。
「(1)多様な主体や人材との協働によるネットワークの構築」における 「○小中学生をはじめ、それぞれの世代が地域コミュニティの大切さを学ぶ機会の創出 ○地域活動の担い手の創出・拡大による地域コミュニティの再生と交流の拡大」を、 「○小中学生をはじめ、それぞれの世代が地域コミュニティの大切さを学ぶ機会を生み出すことにより、地域活動の担い手の創出。地域コミュニティの再生と交流の拡大」に修正すべきではないか。	御指摘を踏まえて、1つの文章に要約し、「小中学生をはじめそれぞれの世代が地域コミュニティの大切さを学ぶ機会の創出や交流の拡大」に修正いたします。
「○移住者と地域とのミスマッチを防ぐための地域の魅力発信」について、ミスマッチを防ぐ方法は地域の魅力発信だけではないことから、記述を修正すべきではないか。	御指摘のとおり、地域の魅力発信だけがミスマッチを防ぐ方法ではないことから、こうした各論の取組の記述ではなく、移住希望者に対する総合的な支援の記述に統合いたします。
(3)農山漁村におけるコミュニティの構築 「○都市住民、大学・企業など外部との連携による地域外の知識・スキル・人材・資金などをマッチングするサポート体制の構築」について、「…連携により地域外の知識…」に修正すべきではないか。	御指摘を踏まえて文章を修正するとともに、例示として「関係人口を増やすなど」という記述を追加いたします。
重要な文化財を観光客等の観光公害による損傷から守ることが重要である。	御指摘のような観光客等による文化財の損傷が起これぬよう文化財の保存・継承・活用の推進を図ってまいります。
今後増々外国人観光客が増える宿泊施設(民泊等)を全て認可制にされたい。今後増える外国人観光客が安い宿泊等調べ、管理者のいない宿泊施設で近隣の住宅等に迷惑をかけ、観光公害を起こす(ゴミ問題、騒音等々)ことのないようにしていただきたい。	住宅宿泊事業(民泊)については、京都府内の事業者(京都市を除く)には法令等に基づき京都府への届出と騒音防止などの措置が義務づけられるとともに、京都府が事業者への監督を実施しております。御指摘の観光公害が発生しないよう、これからも適切な制度運用を図ってまいります。
文化に関わる人材の育成として、若手アーティストの海外留学への援助制度の創設や、文化財の保存・継承のための補助等に係る予算を拡充されたい。 また、府民や観光客への文化の情報発信をしっかりと進めてほしい。	本戦略に基づき、文化に関わる(担う・支える・楽しむ)人づくりや、文化財の保存・継承・活用に関する施策をしっかりと進めてまいります。 また、文化庁や市町村、大学と連携し、国内外への京都の文化を発信してまいります。

基本目標3

意見(要旨)		府の考え方
基本目標4	安心安全な暮らしのまちづくりとして、気候変動や地球温暖化による大雨等でも河川決壊等がおきないように河川の防災強化に力を入れてほしい。	気候変動への適応策のひとつとして、総合的な治水対策など、安心・安全な地域づくりに取り組んでまいります。
	「1 地域の発展の基盤づくり」における「(6)しなやかで安心・安全な地域づくり」の施策はいずれもハード事業であり、ソフト事業も記載すべきではないか。	御指摘を踏まえて、「〇府・市町村の危機管理体制の充実による災害発生時の対応力等の強化」を追記いたします。
	街を歩いているだけでも運動がしたくなるような街づくりが必要であることから、「〇府民が気軽に憩い、スポーツに親しみことができる施設等の整備」を「〇府民が気軽に憩い、スポーツ・運動に親しみることができる街づくりの整備」に修正すべきではないか。	スポーツについては、若者をはじめとする「府民躍動」に位置づけており、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための取組として、スポーツに親しみることができる施設等の整備を進めることとしております。御指摘のまちづくりについては、基本目標4「1 地域の発展の基盤づくり」(5)暮らしやすいまちづくりの推進において、「〇歩きたくなる健康まちづくりの推進」の記述に、「道路・公園等の整備」を追記いたします。
	府南北の交流を良くするため、京都縦貫自動車道の料金を半額にするなど検討すべきではないか。	現在、京都府、福井県、滋賀県および兵庫県とNEXCO西日本関西支社、NEXCO中日本名古屋支社および金沢支社が連携し、ETC限定で期間中、京都縦貫自動車道が定額で乗り放題となる周遊キャンペーンを実施するなど、京都縦貫自動車を活用した府南北の交流促進に取り組んでおります。今後も、京都縦貫自動車道を活用した交流を促進し、地域経済の活性化を図ってまいります。
横断的な目標1	横断的な目標1「2 健康で心豊かな社会の実現」における重要業績評価指標(KPI)の「健康寿命」の基準値について、厚生労働省発表の最新のデータ(平成28年)を記載されたい。 男性 71.85 女性 73.97	京都府の最上位計画である京都府総合計画(及び保健医療の基本計画である京都府保健医療計画)と整合性を図るため、平成25年の基準値で記述しております。
	ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催を契機に、高齢者スポーツの裾野拡大、振興の効果(レガシー)について、高齢者スポーツがロールモデルとなり、スポーツ現場における異世代交流の実現や生涯にわたりスポーツに親しみ態度を青少年に見せる、触れさせる機会となるようスポーツ立県(立府)、生涯スポーツ王国としての構想が欲しい。	「高齢者スポーツの裾野拡大」について、現時点ではスポーツ立県(立府)のような構想はありませんが、御指摘を踏まえてワールドマスターズゲームズ2021関西等を通じた裾野の拡大とレガシーの創出を視野に入れて、高齢者のスポーツ参加が進むよう、施策を推進してまいります。